

たんぼでも、なんでも、かまわずに、どんどんかけだしますと、かえる
たちは、あとからおしあい、へしあい、おっかけます。ひめは、いきが
きれて、あしがつかれて、しにそうになりましたが、それでも、かえる
たちは、おいけるのをやめません。そのうちに、ひがくれて、ひがしの
やまから、まんまるいおつきさまが、でてきました。そのおつきさまを
みると、おしゃべりひめは、ほっと、ひといきつきました。ひがくれた
ら、いくらかえるでも、もうおっかけてこないとおもいましたが、そ
れは、たいへんなまちがいでした。ひがくれて、おつきさまがでると、
のはらのほうは、いちめんにかえるばかりが、いるように、があがあと
なきこえがして、もう、あしもとにおっかけてきそうです。これは、た
いへんと、ひめは、また、やまのほうへ、やまのほうへと、あとをふり
かえり、ふりかえり、にげていきましたが、たかいがけのうえにきます
と、めのしたに、えのようなうつくしいみやこが、みえてきました。そ
のみやこは、ほんとうに、えのようなうつくしい、みやこでした。どの
いえも、どのいえも、しろいかべに、あおいやねで、そのしたから、あ
おや、きいろのでんとうが、きらきらと、ひかっています。そのまん
なかなには、おおきなくろい、てつのおしろがありまして、そのなかから、
むらさきのあかりが、まぶしいほど、ひかってみえました。そのうえに
は、おつきさまと、ほしがひかっている、そのうつく